



所沢市民文化センター ミューズ

2025年7月15日号 (年6回 1・3・5・7・9・11月号発行) 発行元 公益財団法人所沢市文化振興事業団
〒359-0042 埼玉県所沢市並木1-9-1 TEL.04-2998-6500

Info Mart

インフォ・マート

(自主公演のチケットのお求め・お問合せはこちらへ) 04-2998-7777 | <https://www.muse-tokorozawa.or.jp>

vol.138

藤田真央

名手ゲルシュタインと
ピアノデュオで登場!

▶▶P1

創立45周年ツアー 第一弾

鼓童 十二月公演 2025

▶▶P3

スタニスラフ・

ブーニン [ピアノ]

▶▶P5





2024年7月のヴェルビエ音楽祭でブルース・リウ、
アントニオ・パッパーノ、イム・ユンチャンらと共に



2024年8月には世界最大級のクラシック音楽祭BBC
プロムスにチェコ・フィルとの共演でデビューを果たす



2024年11月にはカーネギーホールに2度目の出演を
果たしスタンディング・オベーションの喝采を浴びた



所沢ミューズ2度目の登場はケルン・ギルツェニヒ管
と共演。シューマンの幻想性を見事に描き出した

キリル・ゲルシュタイン & 藤田真央 [ピアノデュオ]

2025年12月13日 (土)
14:15開場 15:00開演
アークホール



公演情報

〈曲目〉
シューベルト: 創作主題による8つの変奏曲
変イ長調 D813

ラヴェル: ラ・ヴァルス
ラフマニノフ: 交響的舞曲 Op.45 ほか

〈チケット発売〉一般: 7月20日 (日)

〈料金〉全席指定 S席: 8,300円 A席: 7,500円

メンバーズ特創 S席: 7,300円 A席: 6,700円

※未就学児の入場はご遠慮ください。※託児サービスあり。

※都合により出演者・曲目の一部が変更になる場合がございます。

7月	ヴェルビエ音楽祭でデュトワ指揮ヴェルビエ祝祭管弦楽団と共演
8月	ビシユコフ指揮チェコ・フィルとの共演でBBCプロムスにデビュー
11月	ピリスの代役としてマラー室内管とフィルハーモニー・ド・パリにデビュー
11月	カーネギーホールで2度目のホール主催リサイタル (リスト／モーツァルト／ベートーヴェン)
2月	【2025年】
7月	オラモ指揮ケルン・ギルツェニヒ管との日本ツアーヴェルビエ音楽祭に室内楽 (2公演) とリサイタルで登場
8月	ブレゲンツ音楽祭／ラ・ロツクルダンテロン音楽祭
8月	ザルツブルク音楽祭でハーゲン弦楽四重奏団とブラームスのピアノ五重奏曲
9月	ミюнフン指揮ミラノ・スカラ座管とイタリアと日本で共演
10月	ビシユコフ指揮チェコ・フィルとプラハでR. シュトラウスの《フルレスク》を演奏
12月	ゲルシュタインとのデュオで全国10公演の日本ツアー

★主要な演奏会ののみ



©Kaupo Kikkas

ゲルシュタインからは多くの刺激を受け、
音楽づくりと対話を重ね作品に対する理解を深める

所沢ミューズでのラフマニノフとシューマン

藤田真央の所沢ミューズ初登場は2023年6月。若き巨匠シャニが率いるロツテルダム・フィルと流麗でみずみずしいラフマニノフを描いてみせた。アンコールでは名ピアニストでもあるシャニとドヴォルジャークの《スラブ舞曲》を連弾して客席を沸かせた。続いて、2025年2月にはドイツの古都ケルンが誇る名門ギルツェニヒ管と登場し、シューマンのピアノ協奏曲を取り上げた。古くはコルトーからリヒテル、ポリーニやアルゲリッチなど歴史的な名演が残されているこの名曲で、藤田真央は自身のしなやかで柔軟な音楽性を活かし、作品の繊細な襞にまで入り込み、1つ1つの楽想に共感する独自の解釈を披露した。もともと単一楽章の《幻想曲》として構想されたこの作品の、まさに「幻想的な世界」に深く分け入るような

いままさに音楽界の頂点へと駆け上がる大活躍

2024年から今年にかけての藤田真央の演奏活動は、まさに「目を見張る」としか言いようのないほどの充実度だ。その主な演奏会をざっと眺めてみよう。

信頼するゲルシュタインとの待望の共演

翌2026年には、すでに3度目となるカーネギーホールでのリサイタルがアナウンスされており、さらにボストン響、ベルリン・ドイツ響など二流オケとの共演も続々と決定している。いままさに音楽界の頂点へと駆け上がる、世界で最もスケジュールの確保が難しいピアニストと言えるだろう。

藤田真央の所沢ミューズ3度目となる出演は、キリル・ゲルシュタインとのピアノデュオ。ゲルシュタインと言えば、コロナ真つただ中の2021年に来日し、所沢ミューズでも榎本大進との共演で見事なデュオを披露。翌週にはソロリサイタルでドビュッシー《12の練習曲》、シューベルト《さすらい人幻想曲》を取り上げ、破格の実力を見せた名手である。ピアノ界のノーベル賞とも言われる《ギルモア賞》を2度も受賞した格別な才能であり、ベルリン・フィルと共演した際に、コンサートマスターとして共演した榎本大進がその才能と知性に惚れ込むほどの逸材である。

ゲルシュタインは、2018年から世界最高水準を誇るドイ

ツのハンス・アイスラー音楽大学の教授に就任し、優れた教師としても知られるが、藤田真央はその生徒という訳だ。レッスンは2020年秋からリモートで始められたというが、お互い豊かな音楽的個性の持ち主であり、作品に対して真摯な信念と知性を大切にしている2人は、相互に刺激し合いながら、音楽づくりと対話を重ねてきた。実際に前述の《72 Preludes》の構想段階では、ゲルシュタインの「真央にしかできない何かを付け加えてみたら」という提案から矢代秋雄作品の録音が実現したという。

世界で活躍する名手2人が5年にわたり築き上げてきた信頼が、ピアノデュオでどのようなか。その



最新アルバム《72 Preludes ショパン／
スクリャービン／矢代秋雄: 24の前奏曲》
の選曲にはゲルシュタインの
アドヴァイスも取り入れた

藤田真央

いままさに世界の頂点を掴もうとする天才ピアニスト藤田真央がまたび所沢ミューズに登場する。その燦めくような才能と世界での目覚ましい活動に迫った。

表現は、藤田真央という音楽家の思索の深さや音楽的パレットの豊かさを見事に示していた。昨年リリースされて大きな話題となった《72 Preludes ショパン／スクリャービン／矢代秋雄: 24の前奏曲》でも、ショパンの美しい詩情、スクリャービンの神秘的な色彩、矢代秋雄の革新性と閃き...とそれぞれの作曲家の内なる魂に深く共感し、それを描き分けてみせる並外れた感受性とテクニクは驚嘆のほかない。



佐渡島に世界の音楽家が集う
国際芸術祭アース・セレブレーションには
世界的なミュージシャンが出演している

鼓童 KODŌ



1988年に佐渡に開村した「鼓童村」の開村記念
コンサート。この地を拠点に世界をつなぐ響きを
発信し続けている



1995年カーネギーホールでの公演。これまで世界
中で7500を超える公演を行い絶賛をあげている



2011年のBLUE MAN GROUP
との初共演以降、交流が続いている

世界的な名声を築きあげてきた太鼓芸能集団「鼓童」が、
2023年以来2年振りにマーキーホールに登場する！
血沸き肉踊り、胸が高鳴るようなステージに「期待していた
きたい」。

ベルリンで衝撃のデビュー ——世界が称賛する庄巻の舞台——

「音楽に「完璧」というものがあるとすれば、鼓童こそがその最
も近くに位置している。」（ポストングローブ紙）「魅惑的で厳
かで重厚な類まれなる音世界…修道僧のような規律正しさと
と深遠な求道の姿勢が、彼らの魅力として特記される。」（フ
ランスのル・フィガロ紙）など世界中で激賞され、日本文化の象
徴として注目を浴びる鼓童。その舞台では日本各地に伝わる
多種多様な太鼓の響きや伝統音楽が融合し、懐かしくも新し
い響きが私たちを魅了する。血沸き肉踊り、胸が高鳴るような
賑やかな楽曲の一方、真剣勝負の武道を思わせるような緊張
感に満ちた静謐な楽曲までその作品は実に多彩だ。

創立は1981年。直後にいきなりベルリン芸術祭にデビュー
を果たし衝撃的な成功をおさめると、以来40年以上にわたり
世界の50以上の国と地域で7500回を超える公演を行い
絶賛を浴び続けている。とりわけ多様な文化や生き方が響き
合う「ひとつの地球」をテーマとした「ワン・アースツアー」は、世
界各国で4200公演を超えている。2023年には、長年
にわたる海外公演を通じて、舞台芸術の世界に日本発祥の
「TAAKO」というジャンルを確立し、日本の文化を海外に
発信し、国際文化交流への多大な貢献が認められ文化庁長官
表彰を受け、2025年には世界から注目を浴びる大阪 関
西万博の開会式で演奏するなど、ますます活躍の場を広げ
ている。

佐渡島の《鼓童村》 ——アース・セレブレーション——

創立以来、新潟県の佐渡島を活動の拠点として創作活動
をおこなってきた鼓童。四季折々の豊かな自然と日本古来の
伝統的な暮らしや芸能が息づくこの地に、鼓童は1988
年にその名も「鼓童村」を開村した。広大な敷地に、稽古場
や住居、工房やスタジオなどの充実した施設が点在し、60名
に及ぶメンバーの創作の拠点となっている。創立以来、鼓童が
理念として掲げる「くらすまなぶつくる」とは、「こうした自
然と伝統が共存する地で日々暮らし、国内外の多様な文化
を肌で学び、そして人と自然の豊かさに根差した表現を創
ること、感性を育むことを端的に表現しているのである」。

鼓童村の開村を契機として開始されたのが、世界各地で巡
り合った人々を佐渡へ招き、豊かな自然の中で世界の文化が
響きあう国際芸術祭「アース・セレブレーション」（地球の祝
祭）である。この芸術祭には、これまでに、インド、セネガル、
タイ、トリニダード・トバゴ、ブルガリア、アイルランド、フランス
などの世界の優れた音楽家たちが参加し、日本からも山下
洋輔、日野皓正、渡辺香津美など一流のミュージシャンが参
加している。アース・セレブレーションの30年を超える活動は
海外でも高く評価され、ニューヨーク・タイムズ紙では「最先
端のワールドミュージックイベント」と評されるなど、まさに
世界的なフェスティバルとして注目を浴び続けている。

今回、2年振りとなる所沢ミューズでの公演は、鼓童の創立
45周年を記念するツアーの第弾に位置付けられるもので、
近年の楽曲を軸に過去の公演のエッセンスを集めた《ベスト
オブ・鼓童》と言つべき内容。世界を魅了してきた「鼓童の
現在（いま）」を映し出す、胸高鳴る舞台に「期待ください」。

創立45周年ツアー 第一弾 鼓童 十二月公演2025

2025年12月14日（日）
15:15開場 16:00開演
マーキーホール

好評発売中



公演情報

〈出演〉太鼓芸能集団 鼓童

〈演出〉鶴見龍馬

〈料金〉全席指定 6,300円

メンバーズ特割 5,300円

※未就学児の入場はご遠慮ください。※託児サービスあり。



©Takashi Okamoto



ショパンの生誕200年を祝うフェスティバルではワルシャワ国立フィルと共演



あしなが育英会のチャリティー・コンサートで中村絃子、山下洋輔と共演。社会貢献にも情熱を注ぐ



1985年のショパン・コンクールで圧倒的な優勝をおさめ世界の音楽ファンに衝撃を与えた

沈黙の時を超えて…いま再び輝く奇跡のタッチ！ スタニスラフ・ブーニン [ピアノ]

Stanislav Bunin
Piano Recital in MUSE

ショパン国際コンクールの優勝で世界に衝撃を与えたブーニン。2013年以降は度重なる病气やけがにより活動の休止を余儀なくされ、一時は再起が危ぶまれたが、2022年6月について演奏活動を再開しファンに大きな感動を与えている。その波乱に満ちた人生をたどった。



ドイツでは古都ケルンを拠点とし、ライン川や大聖堂が様々な音楽的インスピレーションを与えてくれる

1985年 ショパン・コンクールの衝撃

スタニスラフ・ブーニン。その名前は1983年にブーニンがロンドン・ティボー国際コンクールで優勝した時からすでに音楽関係者の間にとどろいていた。冷戦時代にあつて、鉄のカーテンの向こう側のソ連にとんでもない才能のピアニストがいる…。そして、その才能は1985年のショパン国際ピアノコンクールでついに全貌を明らかにすることになる。

目も眩むようなテクニク、閃光を放つような輝かしいタッチ、そして何ものにもとられない自由な精神。19歳のブーニンは圧倒的な演奏により優勝をさらい「コンチエルト賞」「ポロネーズ賞」をも総なめにして音楽界に衝撃を与えた。とりわけ「ワルツ Op. 34-3」、通称「猫のワルツ」での常識を覆すような高速テンポは賛否両論を巻き起こしたが、アンチをも魅了してしまふような輝きを放っていた。

父は高名なピアニスト、母もピアノ教師、そして祖父はギレリスやリヒテル、ルプーを育てた名教師にして伝説のピアニスト、ゲンリフ・ネイガウス。言わばサラブレッドとして生を受けたブーニンの半生がメディアで取り上げられると、とりわけパブル景気に沸く日本では人気が爆発。1986年の初来日では武道館でのリサイタルに1万2000人を動員し、CDが異例の大ヒットとなるなど（ブーニン・フィーバー）と呼ばれる社会現象を巻き起こした。

ついに勝ち取った自由 世界での大活躍

ショパン・コンクールでの優勝により世界的名声と

9年間の長い沈黙

再起への道のり

各国での演奏機会を手に入れたブーニンは、ベルリン・フィル、ロンドン・フィル、ボストン・響、ワルシャワ国立フィル、N響などの一流オーケストラと共演を果たし、ミラノ・スカラ座、ウィーン楽友協会、シヤンゼリゼ劇場、サントリール・ホールなどでリサイタルを行うなど国際的な活動を本格化させる。さらに社会貢献活動にも情熱を注ぎ、アルメニア大地震をはじめ、阪神淡路大震災、奥尻島地震、東日本大震災などでは、いち早くチャリティー・コンサートを行い子供たちにピアノを寄付するなど、被災地に想いを寄せてきた。

各国での演奏機会を手に入れたブーニンは、ベルリン・フィル、ロンドン・フィル、ボストン・響、ワルシャワ国立フィル、N響などの一流オーケストラと共演を果たし、ミラノ・スカラ座、ウィーン楽友協会、シヤンゼリゼ劇場、サントリール・ホールなどでリサイタルを行うなど国際的な活動を本格化させる。さらに社会貢献活動にも情熱を注ぎ、アルメニア大地震をはじめ、阪神淡路大震災、奥尻島地震、東日本大震災などでは、いち早くチャリティー・コンサートを行い子供たちにピアノを寄付するなど、被災地に想いを寄せてきた。

そんな充実した活動のさなか、2013年に病魔がブーニンを襲う。左肩に起こった病（石灰沈着性腱板炎）により左手がほとんど動かなくなり、聴衆の前での演奏が困難な状態に陥ってしまう。時を同じくしてピアノの手ほどきをしてくれた最愛の母が死去し、精神的に大きなショックを受けたブーニンは演奏活動の休止を余儀なくされてしまう。

スタニスラフ・ブーニン [ピアノ]

2025年11月1日(土)
14:15開場 15:00開演
アークホール

好評発売中



公演情報

〈曲目〉
ショパン：エチュードOp.10-3〈別れの曲〉ほか
〈料金〉全席指定 S席：9,700円 A席：8,500円
メンバーズ特別 S席：8,300円 A席：7,300円

※未就学児の入場はご遠慮ください。※託児サービスあり。
※都合により曲目が変更になる場合がございます。

ステージレポート Stage Report

4月12日
~5月10日

4/12 ■ ズーラシアンブラス 誕生25周年祭

(土)

〈アークホール〉
出演／ズーラシアンフィルハーモニー管弦楽団
曲目／どうぶつ祝典序曲
こぎつねコンチェルト
パイプオルガンの怪人
大序曲1812年 ほか



4/13 ■ 第123回所沢寄席 東西大看板競演会

(日)

〈マーキーホール〉
出演／五街道雲助、春風亭一朝、笑福亭鶴光、桂南光



4/27 ■ 石田組 [弦楽合奏]

(日)

〈アークホール〉
出演／
〈ヴァイオリン〉石田泰尚、佐久間聡一、
東亮汰、双紙正哉、村井俊朗、田村昭博
〈ヴィオラ〉木下雄介、古屋聡見、長石篤志
〈チェロ〉西谷牧人、弘田徹、大宮理人
〈コントラバス〉米長幸一
曲目／
ラター：弦楽のための組曲
ピアノ（近藤和明編曲）：リベルタンゴ
ディーブ・パープル（近藤和明編曲）：紫の炎
ほか



5/3 ■ 中村勘九郎 中村七之助 新緑歌舞伎特別公演2025

(土・祝)

〈マーキーホール〉
出演／
中村勘九郎
中村七之助 ほか



5/5 ■ NHK交響楽団 ファビオ・ルイーシ [首席指揮者] リーズ・ドゥ・ラ・サール [ピアノ]

(月・祝)

〈アークホール〉
曲目／
〈ヨーロッパ・ツアー
記念プログラム〉
武満徹：
3つの映画音楽
グリーグ：ピアノ協奏曲
イ短調 Op.16
ブラームス：交響曲第4番
ホ短調 Op.98



5/10 ■ ウラディーミル・ユロフスキ [指揮] ベルリン放送交響楽団 辻井伸行 [ピアノ]

(土)

〈アークホール〉
曲目／
ベートーヴェン：《エグモント》序曲
ショパン：ピアノ協奏曲 第2番
ハ短調 Op.21
ブラームス：交響曲第1番
ハ短調 Op.68



写真撮影（市民カメラマン）／西山（4/12）中村（4/13）由井（4/27、5/5）三平（5/3）佐藤（5/10）

チケットのお問合せは……ミュージズチケットカウンター

04-2998-7777

●窓口・電話予約10:00~18:00 ※休館日を除く

●インターネット予約

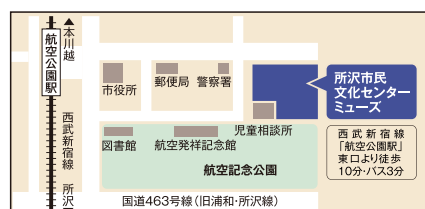
所沢 ミューズ

検索



クラシック・ポピュラー・演劇・
寄席など多彩で魅力溢れる公演
を開催しております！

詳細はミュージズホームページで
ご確認ください。
<https://www.muse-tokorozawa.or.jp>



※公演情報は2025年6月20日現在のものです。曲目・出演者の変更やチケットが売切れとなることも
ございますので、ご了承ください。

今回のインフォ・マートは2025年9月15日発行予定です。どうぞお楽しみに。